

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像
自分のよさを知り、失敗を恐れなくて挑戦する子

令和7年度 重点目標
『かかわりを学びに』 ～どの子ども学びの手応えを実感できる授業づくり [話す・聞くを軸にした学び]～

| | |
|---|--|
| <p>確かな学びの現状</p> <p>令和6年度全国学力・学習状況調査の結果では、国語・算数における正答率が大阪府平均・全国平均をすべて上回っていた。また、「すくすくウォッチ」の結果でも正答率は大阪府平均を上回っていた。そのため、児童の学びは良好な状態を維持していると考えられる。</p> <p>一方で全国学力・学習状況調査の結果において、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか」などの思考力・判断力・表現力等に関するアンケート項目では、肯定的な回答率が低く、学年が上がるにつれて下降傾向にあるという課題が残っている。これらの課題に対して、相手意識や目的意識をもって話す活動や、友だちとの考えの共通点や相違点に着目して聞く活動、考えを再構築するための交流などを重視した指導に取り組む。また、学びの基礎をしっかりと固め、人のかかわりの中で学びの手応えを実感できる授業づくりを重点目標とし、家庭学習の手引きの活用による学力の維持にも取り組んでいく必要がある。</p> | <p>豊かな心・健やかな体の現状</p> <p>全国体力運動能力調査では、どの種目も全国平均に近い値になってはいるが、平均を下回る種目がほとんどである。</p> <p>昨年度に引き続き、堺っ子体操を重点的にを行い、体づくりの運動を行う。また、休み時間は各クラスで「みんな遊び」を実践するなど、休み時間になったら外に出て体を動かす機会を設ける。防災教育では、昨年度から高まる南海トラフ地震の発生の危険性に備え、自ら考え、命を守る行動をとろうとする児童の育成が必要なのではないかと考える。そのため、避難訓練を通して、実際に地震が発生したことを想定し、児童自身にどうすればよいかを考える機会を設け、練習ではなく命を守る行動を意識する取り組みを行う。</p> |
|---|--|

| 大項目 | 中項目 | 具体目標 | 具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組) | 判断基準 (評価のものさし) | 評価方法 | 評価時期 | 進捗確認 (～10月) | 達成状況(年度末) | | |
|--|-----------------------------|---|--|--|--|----------------------|---|---|--|--|
| | | | | | | | | 自己評価 | 学校関係者評価 | |
| 確かな学び | 教科学習 | 確かな学力を育む 授業づくりをする | ●校内研修による授業力の向上に努める。研修は、主に「話す・聞く」を軸とした日々の実践の積み重ね、研究授業と教科研修委員会での実践交流により進めていく。 | A:実践交流の実施状況(月1回実践共有) B:児童アンケートで肯定的回答85%以上 | A:実施状況 B:児童アンケート | 学年末 | B | 校内研修による授業力向上については、年度当初の計画に沿って取り組みを進めている。日々の授業実践においては、「話す・聞く」を意識した活動を積極的に取り入れ、研究授業と教科研修委員会での実践交流も定期的に実施している。 | | |
| | | | ○家庭学習等の共通理解による学力向上に努める。自主学習の手引きをもとに、学習習慣の獲得を促進する。 | 児童アンケートで肯定的回答75%以上 | 児童アンケート | 学年末 | B | 家庭学習の質を高めたり、習慣化を図ったりするため、内容や取り組み方が分かりやすい児童のノートを掲示し、イメージの共通理解を図っている。 | | |
| | | | ○生活科・総合的な学習を中心とするカリキュラム・マネジメントの推進を図る。高学年を中心に、学習における児童生使用パソコンの活用を推進する。 | A:カリキュラム・マネジメントの実施の有無 B:児童アンケートの肯定的回答75%以上 | A:実施状況 B:児童アンケート | 学年末 | B | カリキュラム・マネジメントの推進に向けて、各教科等の年間指導計画をもとに、教職員間での共有と見直しを継続的に行っている。児童用パソコンの活用については、積極的に取り入れているが、活用場面のさらなる拡大と教職員の指導スキル向上に努めていく必要がある。 | | |
| | 特別支援教育 | 一人一人の課題を把握し、課題に沿った教育を行う | ○ひまわり学級:それぞれの児童の特性を踏まえた個別の指導を行い、達成感を感じつつ、成功体験を積み上げ、自己肯定感を育てる。また、集団の中で自分を生かす活動できるように支援する。 | 教育支援計画、個別の指導計画をもとに評価する。達成率80%以上 | 教育支援計画 個別の指導計画 | 学年末 | B | 多くの児童がひまわり学級での学級開きやひまわり体育、栽培活動などの活動や学習に積極的に取り組み、達成感を味わいながら自己肯定感が育ちつつある。参加が難しい児童は、事前に見直しをもたせ活動や学習に参加できるように促している。 | | |
| | | | ○ひばり教室:通常学級の困り感のある児童に対して、担任・家庭と連携しながら、個々の支援ニーズを把握し、改善・克服を目的とした、個別のトレーニングによるスキルアップを図る。 | 個別の指導計画をもとに評価する。 | 個別の指導計画 | 学年末 | B | 個別の指導計画で目標を設定し、家庭・担任・児童と支援方針を共通理解し取り組んでいる。児童は自身の得意なことや苦手なことを知り、それぞれの課題に取り組みながら、解決・克服・緩和にむけて力を身につけていく。 | | |
| | | | ○通常学級:ユニバーサル・デザインを意識した学級経営を行い、だれもが「わかる、できる」授業づくり、またそれぞれの児童が「居場所」を感じられる学級づくりをめざす。 | 達成率80%以上 | 児童アンケート | 学年末 | B | 多様な特性をもつ児童への配慮や授業のつくり方等を、夏期研修にて行った。また、UDに向けて学習で使用する掲示物を学校で統一し、全員が参加できる環境をつくっている。 | | |
| 豊かな心・健やかな体 | 道徳・人権 | 豊かな心を育む 道徳・人権教育をおこなう | ○「考え、議論する道徳」に向け、公開授業を年1回以上行う。また、いじめを自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、自分と同じように他者を尊重する態度を育む。 | 公開授業を行い、実践交流する。 | 公開授業 | 学年末 | B | 公開授業を9月に行った。ここでは、「考え、議論する道徳」を学校全体でめざしていけるように、まずその前段階として、「話し合いのつながりから他者とのつながりをたくさんもつ」というテーマをもって授業を作り上げた。そして、その場で感じたことを全体で振り返ることができた。 | | |
| | | ●なまこづくり(人と環境づくりを軸として、一人ひとりが認められ、高め合う集団を育成する):自分を含め、相手も認めることができるような取り組みを成長段階に応じ行う。・自他共に認め合う態度を醸成することで、寛容さと謙虚さが一体となった広い心を育くみ、互いに高め合う。 | A:グループワークを実施し、その内容と効果を報告する。 B:児童アンケートの肯定的回答80% | A:実践報告 B:児童アンケート | 学年末 | B | 人権の研修テーマに対する各学年の目標や取り組み、実践記録を学期ごとに行った。またグループワークだけでなく、様々な授業において、聞く姿勢や話し合いのできる環境づくりを促すなど、「なまこづくり」を意識した取り組みを行った。 | | | |
| | 生徒指導 | 笑顔あふれる 学校づくりをする | ●生徒指導:ルールの必要性に児童自らが気づき、すすんで行動できる指導を行う。 (朝礼での啓発、隔月の生活目標の設定、児童会からの働きかけ) ・不登校対応の協力体制、いじめ防止推進研修、ともだちアンケートの実施 ・いじめ早期発見と早期解決・関係機関との協力・児童の心のケア・組織的対応 | 児童アンケートの肯定的回答90%以上 | 児童アンケート | 学年末 | B | 生活目標を朝礼などの機会に教員、児童会から発信し、児童自らがルールの必要性に気づく取り組みを続けている。ともだちアンケートを実施し、いじめ・不登校の早期発見、未然防止に努めている。登校委員会を実施し、学校全体で不登校対応をすすめている。・SC、SSW、教育センターなど外部機関と連携した不登校対応を行っている。 | | |
| | | | ○児童活動 ・児童が自ら課題を見つけ、主体的に取り組む学校づくりをすすめる。 (児童議会、児童会役員選出・活動、児童による啓発) | 児童アンケートの肯定的回答90%以上 | 児童アンケート | 学年末 | B | 全校朝礼での司会、あいさつ運動や体育大会のスローガン、募金活動、新たな活動の提案など児童が主体的に取り組む学校づくりをすすめている。 | | |
| | | | ○美化指導 ・児童が学校をきれいにすることのよさに気付く指導を行う。 (そうじの仕方の指導・高学年が低学年の手本になる清掃ができる指導) | 児童アンケートの肯定的回答85%以上 | 児童アンケート | 学年末 | B | 高学年(5年生6年生)が低学年(1年生2年生)の清掃のお手伝いに行くなど、高学年が手本になって清掃の仕方を教える取り組みを進めている。日々の清掃指導を通して、学校をきれいにすることのよさを啓発している。 | | |
| | 保健・体育・給食 | 学力を支える 健やかな体を育成する | ○保健:学校災害発生の防止(アイトイム継続)、心身の健康課題の早期発見および組織的対応。 | ケース会議の実施、HP、ほけんだより 掲示物を活用した啓発 | 実施状況 | 学年末 | B | アイトイム導入4年目。学校災害発生数は1学期35件(昨年度18件)。2学期より児童・保護者へ向けて啓発活動を強化予定。学校健康診断により明らかになった健康課題についてほけんだより、掲示物にて啓発を実施。 | | |
| ○体育:授業の初めに「新堺っ子体操」を実施することや、限られた場所でも運動量を確保する工夫を小学校体育指導の手引を使って行うことで、健康の保持増進と体力の向上をめざす。そのために、職員研修(若手研等)の実施や委員会活動による児童への啓発を行う。 | | | 児童アンケートの肯定的回答85%以上 | 研修実施状況 職員アンケート | 学年末 | B | 児童に向けて「堺っ子体操」の指導や教員向けに水泳研修を行った。今後は委員会活動でリズム縄跳びの実施を呼びかけ、健康の増進と体力の向上をめざすようにする。 | | | |
| ○給食:健康行動の形成・維持を目標とし、栄養バランスを理解して、朝食・給食を摂る態度を育成する。そのために、給食前の衛生点検や委員会活動による児童への啓発を行う。 | | | 児童アンケートの肯定的回答80%以上 | 点検結果 児童アンケート | 学年末 | B | 1学期に朝食、給食、牛乳の栄養などについて、学年に応じた指導を実施した。給食委員会の児童が衛生点検とマナー向上の啓発を行っている。 | | | |
| 幼小中一貫 | 長所を伸ばそうとする態度や、粘り強く取り組む態度を養う | ★キャリア教育、いのちの授業など、自分自身を見つめる活動を取り入れる。 | 各学習の実施の有無 | 実施状況 | 学年末 | B | 10月上旬に、4年生にていのちの授業を実施し、3学期は6年生がキャリア教育授業を実施予定。 | | | |
| | | 地域協働 | コミュニティ・スクールを推進する | ●地域資源(人材等)の活用により、生活・総合的学習や防災・キャリア・環境教育等を充実させる。 ○学校力向上プラン、日常的な学校教育活動をHPや学校通信等を通じて積極的に発信する。 | A:プリント、HP、学校通信で積極的に発信する B:保護者アンケートの肯定的回答85%以上 | A:実施状況 B:保護者アンケート | 学年末 | B | 田植え、稲刈りは地域の方に体験させていただいた。また、クラブでは地域の方に講師として来ていただき、指導していただいた。 月1回の学校だより、teturuを活用しての連絡配信、HPでの活動配信ができています。 | |